

田和山の森から

しいたけ栽培場所の整備

8月の作業は暑さのため大変でしたが、盆休みを除き予定通り3日間行ないました。草刈りや竹の伐採でしたが、26日はしいたけ栽培を行っている場所の整備をしました。周りを囲む古くなった網を新しく取り換え、古い原木を廃棄し、整地をしました。今後、仮伏せしている原木を搬入し並べ替えることとなります。



竹の伐採

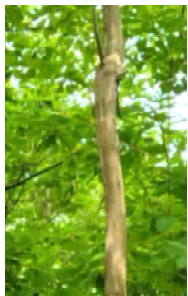


網の張り替え

田和山の樹木第32回 リョウブ



リョウブの花



リョウブの幹



リョウブの枝

田和山の森で夏の暑い時期(7~8月)に花を付ける数少ない樹木には、前回取り上げたクサギのほかにリョウブがあります。日本に自生するリョウブ科の樹木はリョウブ1種だけです。漢字では「令法」と書きますが、これは名前の由来として「法令に基づいてこの木を植えさせた」ところから付けられたと言われています。なぜ植えさせたかといえば、救荒植物(「きゅうこうしょくぶつ」とは、飢饉、戦争で食料が不足した時に、その不足をしのぐために食料として利用される植物)として利用されたからのようです。

食用となるのは芽吹いてすぐの若葉で。アクがなく、生のまま食べることもできますが、一般的にはお湯を通した後に乾燥させたものを御飯や団子に混ぜて食べます。

花は枝先に房状につき、サルスベリのような滑らかな樹の肌をしています。丘陵から尾根にかけて、乾いた落葉樹林に自生することから松江の山でごく普通に見られる樹木で、樹高は8~10mになります。(竹下記)

キノコ“カエントケ”

田和山にも秋が近づき、あちこちにキノコが見られるようになりました。日本には、四千から五千種類のキノコがあると言われてはいますが、正確には不明です。この内、食べられるキノコは約百種類、一方毒キノコは約四十種類が知られています。その他大半のキノコは食害不明です。食べる場合はこれまで食べたことのあるキノコや、よく知られたキノコを食べるのが無難です。

今年は気候の関係もあり、猛毒の“カエントケ”が大山で大繁殖していると新聞(山陰中央新聞8/31付)で報じていました。ナラ枯れした老木付近で見ついています。火炎のような形をしており、鮮赤色で鶏冠状の様な物も見られます。触れるだけで皮膚の炎症を起こし、食べると死ぬ恐れがある怖いキノコです。万一見つけたら連絡してください。

右の写真 カエントケ



田和山サポートクラブ9月行事予定(関係分)

9月5日(月)10時~於乃木公民館:鳥取・島根連携事業 第1回意見交換会

同上 4時~於田和山館:松江市・サポートクラブ・育てる会の三団体連絡会

24日(土)10時~於田和山館:鳥取・島根連携事業 現地見学会

同上 13時~於松江テルサ大会議室:鳥取・島根連携事業 講演講師 大竹幸恵氏(長野県長和町)

事例紹介

今後の活動予定 ①10月から作業時間は通常通りです

9月2日(金)9:00~、9日(金)9:00~、17日(土)9:00~、23日(金)9:00~、30日(金)9:00~

10月7日(金)13:00~、15日(土)9:00~、21日(金)13:00~、28日(金)13:00~、